

令和 2 年 7 月 3 日現在

機関番号：17601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K10334

研究課題名(和文) 学校教員における職業性ストレスの評価と評価票の開発

研究課題名(英文) Development of the school teachers job stressor scale (STJSS)

研究代表者

直野 慶子(長友慶子)(Naono, Keiko)

宮崎大学・医学部・臨床教授

研究者番号：00381070

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：学校教員の精神疾患を理由とする休職者数は増加し、平成30年度の病気休職者の約6割を

精神疾患が占めている。ストレスチェック制度は、すべての労働者が同じ調査票で評価される。しかし、職種が異なればストレス要因は大きく異なり、職種における職業性ストレスを十分な信頼性と妥当性を有した専用の尺度でストレス要因を評価することが、具体的な対策のために必要であると考えた。宮崎大学医学部精神医学講座と宮崎大学教育学部教職大学院との共同研究で、宮崎市教育委員会の協力をいただき、小学校・中学校の教員を対象(一次調査98名、二次調査2276名)とした調査で統計学的な解析をし、教員の職業性ストレス要因評定尺度を開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回開発した教員の職業性ストレス要因評定尺度(STJSS)を用いて、校長や教頭等の管理者が教員のメンタル面での問題を把握し、ストレス要因(業務外の時間的拘束・教員の能力に対する自己評価・教員間の人間関係・教育以外の社会的対応・教育以外の業務)について評価することができる。

研究成果の概要(英文)：Japanese teachers are not only responsible for students but also for tasks outside the classroom, including engagement with parents and the community, and maintaining safety. Thus, we aimed to develop an assessment scale for job stress in teachers and to evaluate its psychometric properties. We developed the "School Teachers Job Stressor Scale (STJSS) Draft" comprising 45 items, based on previous anonymous self-report questionnaires collected from 98 teachers in Miyazaki Prefecture. Subsequently, the scale draft was distributed to 2276 teachers in Miyazaki City. Exploratory factor analysis extracted five factors: "Time spent outside of work," "Self-assessment of one's ability as a teacher," "Relationship with other teachers," "Social interactions outside of teaching," and "Duties outside of teaching." The 23 item STJSS developed to measure specific stressors in Japanese teachers to improve their mental health care could provide an accurate assessment tool.

研究分野：精神医学

キーワード：学校教員 ストレッサー 尺度作成

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

平成 10 年から日本の年間自殺者数は 3 万人を超え、平成 18 年に自殺対策基本法が制定された。厚生労働省は平成 22 年 5 月に「今後の自殺防止のための厚生労働省の対策 五本柱」を策定、「柱 3 職場におけるメンタルヘルス対策・職場復帰支援の充実」では、労働安全衛生法（以下、安衛法）に基づく定期健康診断による「職場におけるメンタルヘルス不調者の把握」を「職場環境の改善」につなげるという対応へと変化した。厚生労働省による平成 24 年労働者健康状況調査によれば、6 割の労働者が仕事や職業生活に関する強い不安、悩み、ストレスを感じている。精神障害等に係る労災認定件数は高水準で推移しており、職場のメンタルヘルス対策は重要な課題である。

近年、我が国における職業性ストレスはますます高まっている。これに伴い、医療従事者の職業性ストレスに関する研究は多数行われるようになってきた。しかし、教育従事者の職業性ストレスに関する研究は、海外に比較すると少ないのが現状である。従来の職業性ストレスに関する調査研究を概観すると、その殆どが質問紙を用いた研究であり、既存の職業性ストレス尺度が使用されている。たとえば、我が国で最も広く使用されている職業性ストレス尺度の一つは、職業性ストレス簡易調査票であり、労働者全般の職業性ストレスを標準化して開発されている。これまでの学校教員のストレス研究の多くでは、既存の職業性ストレス尺度が使用されてきた。しかし、職種が異なればストレス源や、ストレス構造も異なることが推測される。そのため、それぞれの職種における職業性ストレスを標準化し、十分な信頼性と妥当性を有した専用の尺度でストレスを評価することが、具体的なメンタルヘルスケアのために必要である。しかし、教員の職業ストレスを測る尺度は整っていないのが現状である。学校教員には、「保護者との対応」や「生徒指導」や部活などの「その他の業務」など教員特有のストレス要因が示唆されている。このように、学校教員はそのストレス構造もまた異なっていることが推測される。それぞれの職業性ストレスを容易にしかも客観的に評価することができるツールがあれば、自身のセルフケアまたは管理者のラインケアのための情報を提供することが可能になる。これは、教育に従事する者のメンタルヘルスを守り、ひいては児童生徒へのケアの質の低下を防止することが期

待される。

## 2．研究の目的

学校教員における高いストレスは、メンタルヘルス上の問題であると同時に、教員のメンタルヘルス悪化は、児童生徒の教育や人格形成に関わる直接的な問題であり、メンタルヘルス向上のための研究は重要なテーマだといえる。学校教員の精神疾患を理由とする休職者数は増加し続け、平成 25 年の病気休職者数 8408 人のうち精神疾患を理由とする者は 5078 人と、教員の病気休職者の約 6 割を精神疾患が占める（文部科学省、平成 25 年度学校基本調査）。この要因には、感情労働としての業務量の増加や職場での人間関係等が挙げられる。他職種と比較しても、教員はより強いストレス状況下であり、うつ傾向も強いことが報告されている。海外では教員のワークライフバランス研究が報告されているが、日本では未だなされていない。しかしながら、職種が異なればストレスは大きく異なる事が予想され、ストレス構造も異なることが推測される。そのため、それぞれの職種における職業性ストレスを標準化し、十分な信頼性と妥当性を有した専用の尺度でストレス要因を評価することが、具体的なメンタルヘルスケアのために必要である。本検討では、小学校・中学校の教員を対象として、各職種における職業性ストレス要因尺度を開発するための予備調査を実施し、尺度項目を作成し、比較検討しながら職業性ストレス要因を評価することを目的とする。なお、本研究は、教員の職業性ストレスの分野における新たな知見を得ることを目的とする学術研究活動として実施されるものである。

## 3．研究の方法

質問紙の配布・回収方法：宮崎市に存在する教育委員会に協力を依頼する。各職種における講習会や例会などに出向き文書・口頭による十分な説明を行い、協力を依頼

し同意を得られた者を対象とする。また、医療・福祉施設においては施設責任者に文書・口頭による十分な説明を行い、協力を依頼し同意を得られた者を対象とする。無記名自記式の質問紙の配布は研究者本人または施設責任者に依頼して配布する。依頼時には各被調査者に研究事務局の住所が記入され、郵便切手が貼付された封筒を渡し、回答した質問紙を直接事務局に送付することを依頼する。医療・福祉施設においては、施設責任者が封筒を取りまとめて事務局に送付することを依頼する。予備調査と本調査の合計2回、郵送により行う。予備調査を自由記述式の質問紙とし、その回答を元に本調査の質問用紙を作成する。

#### 4. 研究成果

宮崎大学医学部精神医学講座と宮崎大学教育学部教職大学院との共同研究で、宮崎市教育委員会の協力をいただき、小学校・中学校の教員を対象（一次調査98名、二次調査2276名）とした調査で統計学的な解析をし、5つの尺度（業務外の時間的拘束・教員の能力に対する自己評価・教員間の人間関係・教育以外の社会的対応・教育以外の業務）からなる23項目の「教員の職業性ストレス要因評価尺度（STJSS: The school teachers job stressor scale）」を開発し、Neuropsychopharmacology Reports に掲載された。

( Keiko Naono Nagatomo, Hiroshi Abe, Hironori Yada, Kenichi Higashizako, Michihiko Nakano, Ryuichiro Takeda, Yasushi Ishida: Development of the school teachers job stressor scale (STJSS). Neuropsychopharmacology Reports 39:164-172, 2019 )

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Keiko Naono-Nagatomo, Hiroshi Abe, Hironori Yada, Kenichi Higashizako, Michihiko Nakano, Ryuichiro Takeda, Yasushi Ishida	4. 巻 39
2. 論文標題 Development of the School Teachers Job Stressor Scale (STJSS)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 164-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

本研究について、宮崎日日新聞に2020年6月29日の第1紙面に掲載された。
---------------------------------------

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石田 康  (Ishida Yasushi)  (20212897)	宮崎大学・医学部・教授    (17601)	
研究分担者	安部 博史  (Abe Hiroshi)  (20344848)	北海道医療大学・心理科学部・教授    (30110)	

